

## やりたい放題の安倍をとめよう

金安 弘

### はじめに

まさに「選挙が終わればなんでもありか」と言えるほど、選挙後の一か月、安倍内閣はやりたい放題。新基地建設に向けた新しい攻撃が沖縄北部一帯の陸と海で始まっている。朝鮮の目の前で原子力空母3隻を投入した軍事演習が日米共同で決行された。トランプ政権の戦争挑発に対し、「全面的に支持する」と表明する安倍首相。柏崎・刈羽原発再稼働へのGOサイン。疑惑未解決のまま加計学園の申請を認可。日本版トマホーク(巡航ミサイル)の開発に向けての研究費77億円を計上。そしてその先に何かがあるのか。来年の通常国会で改憲案を提出する方針を11月8日の憲法改正推進本部の幹事会で決定。2020年7月24日(東京オリンピックの開始日)までに新天皇による改正憲法公布をやり抜く。安倍の悲願だ。悲願を悲観にするために、みなさん、どっこい諦めずにガンバロウ。

### 11.13 砕石運搬阻止行動

沖縄最北端の辺戸岬を通過し、国道58号線が終わり、県道70号線になるその奥橋から沖縄県が管轄する奥港が見える。11月6日、沖縄防衛局が新たに着工をした通称「K1護岸」と「N5護岸」工事に対し、沖縄県知事は「移設阻止に向けて全力で戦う」と改めて表明。一週間後の12日、私たち名古屋から沖縄に行った二人は、砕石運搬船が使用するという奥港にいた。どんな所か見ておきたい、管理権のある県はなぜ許可したのかという疑問とともに。35トンと記された大型車が3台、10トンダンプが4台、何かの工事を終了したらしい。やがてこの港から船で砕石が辺野古へ運搬されるとしか考えられなかった。10月21日、名古屋で講演をもらった奥間さんから連絡が入る。「ダンプによる砕石搬入が明日の朝から始まる。来られるなら阻止行動に参加してほしい」と。翌朝奥集落のオジイ、オバア15人、支援の人15人。リーダーらしき人が「各自自分のやれる範囲で、無理はしないでください」それだけが方針だった。10トンダンプ21台が、車列を組んでやって来た。「危険ですからどいてください」という沖縄県警。オジイやオバア真っ先にダンプの前に座り込む。みんな続く。何回も排除され、最後は10人ほどが15人の機動隊に囲まれ、30

分ほど隔離された。500tの砕石を運搬できる台船に10トンダンプがバックで入り砕石を下す。11月7日、中日新聞にカラー写真で出ていたあの砕石と同じもので、その日、午後からも25台がやって来て、同じことをした。これから来年の3月まで続くそうだ。村の協議会には「やる」という一方的な連絡があったのみで、静かで穏やかな集落が一変した。翁長知事が許可を出さなければこんなことにならな



かったと思うと、翁長知事は県民に対して十分納得できる説明責任がある。来年11月の知事選に向け、一点の曇りもあってはいけな

### 11.14 カテナ基地にて

11日から14日までの日本海での3空母の参加による米韓、米日の軍事訓練にカテナ基地がどう対応するのか、「道の駅かでな」の屋上から観察しました。14日、この日屋上は見物人でいっぱいでした。それと「嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会」(三連協)が朝から目視調査をやっていました。「基地に配備されているF15戦闘機やF35Aステルス戦闘機の訓練は日常的だが、岩国から来たFA18スーパーホーネットが同時に訓練をしているのは今までとは全く違う訓練だ」と地元の記者。さらに、「今日からF35Bに対応できる舗装工事が伊江島補助飛行場で始まる。完成すれば、海兵隊の飛行機だけどこにもやってくる。F15、F35A、F18(戦闘機)、F35B(最新鋭ステルス戦闘機)、もう住民は限界だよ。日本政府は知らぬ顔だからね。辺野古の新基地建設、高江のヘリパッド、伊江島のF35Bとオスプレイ、負担軽減どころか北部での米軍大増強さ」早口でまくしたてられ、やはりつらい思いで聞きました。「沖縄の人々がどんなに頑張っても、この現実を変えられません」と言った佐喜真美術館の夫人の言葉が蘇りました。

おわりに

どの集会に行ってもジジ・ババばかり。若い人々を振り向かせるような表現のなさを切に感じます。「今更どう変えればいいんだ」と居直りの自分も現実。自分一人を変えられずに、社会を変えることなどできないと学生時代以来ずっと思って来ました。変わりようのない自分ともう少し付き合っていくしかないか、と考えています。